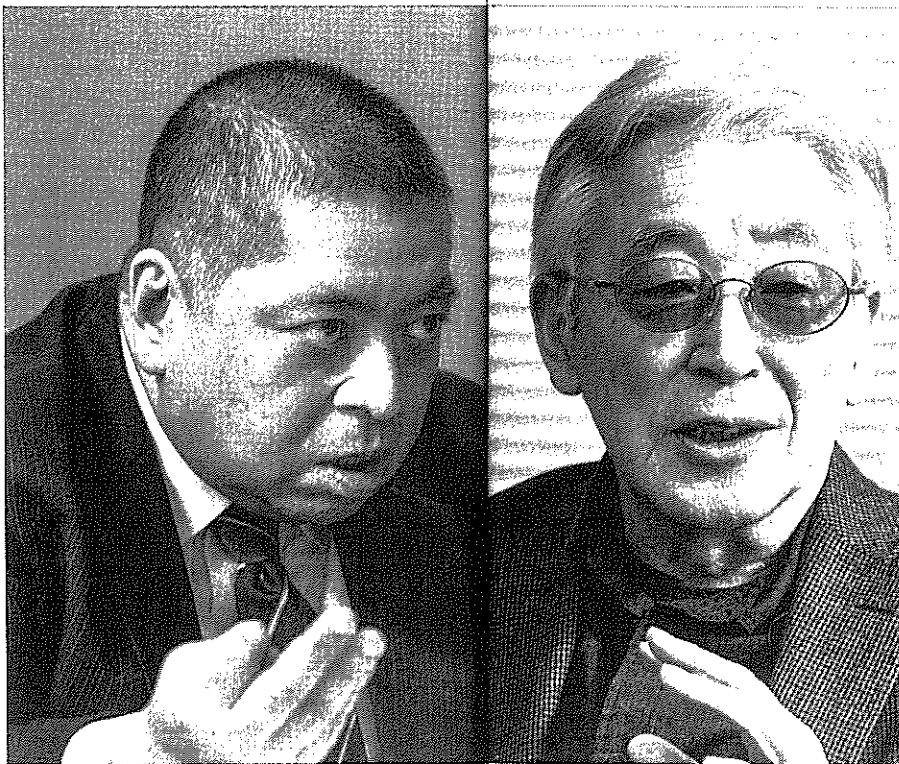


東京大学名誉教授

山内昌之

やまうちまさゆき

1947年生まれ。北海道大学文学部卒業。博士(学術)。カイロ大学客員助教授、ハーヴァード大学客員研究員、東京大学教授を経て、東京大学名誉教授、明治大学特任教授。専門は国際関係史、中東イスラーム地域研究。2002年司馬遼太郎賞受賞。06年紫綬褒章受章。『スルタンガリエフの夢』『瀕死のリヴァイアサン』『ラディカル・ヒストリー』など著書多数。



東京大学名誉教授

本村凌二

もとむらりょうじ

1947年生まれ。一橋大学社会学部卒業。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。博士(文学)。東京大学教授、早稲田大学特任教授など歴任。専門は古代ローマ史、西洋史。2008年地中海学会賞を受賞。『薄闇のローマ世界』『古代ボンベイの日常生活』『多神教と一神教』『競馬の世界史』『教養としての「世界史」の読み方』『谷次郎』など著書多数。

鼎談

疫病という「世界史の逆襲」

AI社会が直面する見えざる脅威

AI化を進める中国が直面した「世界史の逆襲」

山内 この鼎談では、グローバル化が進む一方で中国やロシアなど一部の権威主義国家が「帝国」のように振る舞う様を、いわば「新・帝国主義」の時代として語りたいと思っていました。ところが、そんな矢先に中国から新型コロナウイルス感染症

(COVID-19)が発生し、日本を

はじめとするアジアだけでなく世界中に広がり、どうやら米国も似たような流行病で大混乱に陥っている。

実は感染症は歴史的には、それが広い地域で大流行した時期が、時代の転換点にすらなってきた大問題でした。折しも我々の眼前で、その問題が展開しているのです。

本村 歴史学の大家、ウィリアム・

作家・元外務省主任分析官

佐藤 優

さとうまさる

1960年生まれ。同志社大学神学部卒業。同大大学院神学研究科修了後、85年外務省入省。在ロシア日本大使館に勤務。北方領土問題など対ロシア外交で活躍。2002年背任と偽計業務妨害容疑で逮捕、起訴され、09年6月有罪確定。13年6月、執行猶予期間満了。同志社大学神学部客員教授、名城大学客員教授。『国家の罫』『自壊する帝国』『十五の夏』など著書多数。

H・マクニールが『疫病と世界史』

を、進化生物学者のジャレド・ダイアモンドが『銃・病原菌・鉄』を書いて世界的ベストセラーになりましたが、医学、生物学が進歩したことによって感染症の影響力が見直され、新たな歴史学が切り拓かれました。病原菌という古くからある脅威に、人類は、また社会はどう立ち向かうのか。重要な論点です。

中央公論

4

2020
APRIL



瀕死の民主主義と新型肺炎

世界史の逆襲 / 山内昌之 × 本村凌二 × 佐藤 優

感染症と文明社会 / 山本太郎 ● フランスから / 辻 仁成

特集 21世紀

中国 ● 岡本隆司 × 梶谷 懐 ロシア ● 小泉 悠 英国 ● 君塚直隆

中露、GAFAの脅威 / ニーアル・ファーガソン

新しい政治思想を / 東 浩紀 × 山本龍彦

の危機?

[皇室論] 里中満智子 × 御厨 貴 [文学論] 平野啓一郎